

小学校教科担任制の4つの効果

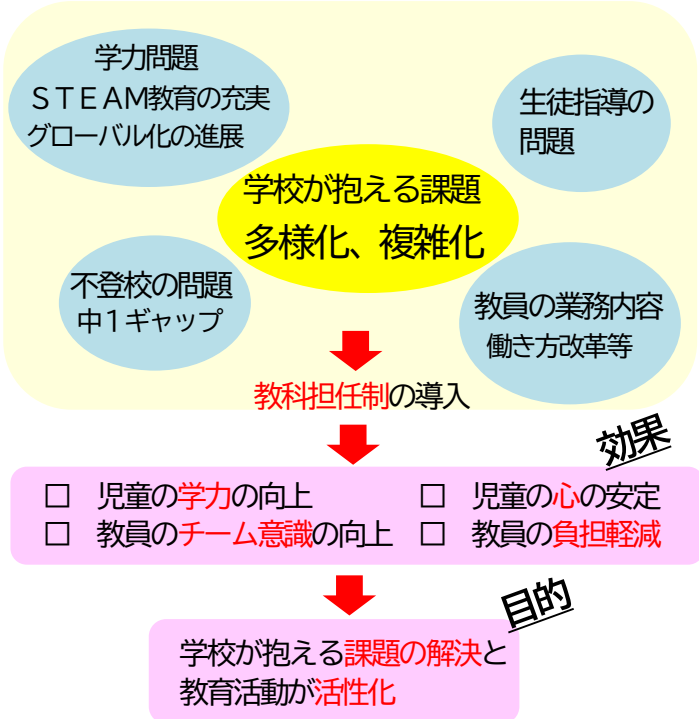
○教科担任制導入の目的

現在学校では、学力向上、生徒指導の問題、不登校、学校の働き方改革等様々な問題を抱えています。それらの問題は年々多様化、複雑化しており、学校が抱える大きな課題となっています。

そこで、学校が抱える課題を解決していく1つとして、教科担任制を導入し学校改革を進めます。

教科担任制により、児童の学力向上、児童の心の安定、教員のチーム意識の向上、教員の負担軽減という4つの効果が考えられます。そして、学校組織全体で行うことで教育活動を活性化させます。

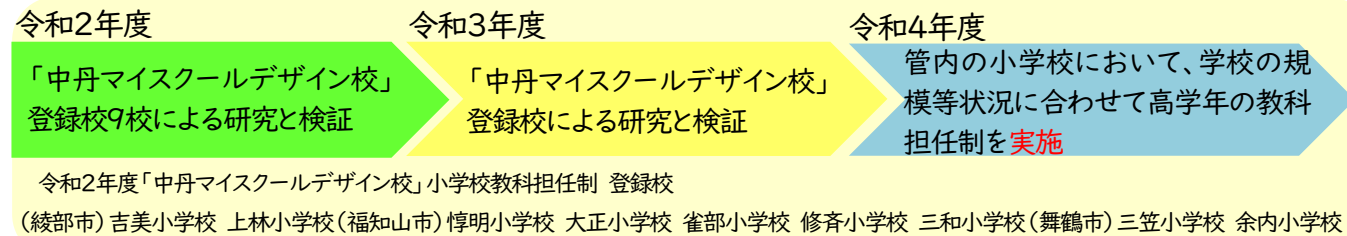
学校の抱える課題を解決し、教育活動を一層活性化させ、児童に必要な資質・能力の育成を目指すため、今、教科担任制の導入が求められます。



○教科担任制の実施時期

参考資料「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申) 文部科学省中央教育審議会(令和3年1月)

文部科学省中央教育審議会では、義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方として、令和4年(2022年)を目途に、外国語、算数、理科において小学校高学年から教科担任制を本格導入する答申をまとめました。このため、中丹教育局では、令和4年の4月から管内のすべての小学校において、それぞれの学校の状況に合わせて教科担任制の実施を目指します。



○教科担任制の実施例

交換授業では、教員の空き時間はできませんが、教科の専門性を高めたり系統性を考えたり、指導と評価を考えたりする上で、有効な手法です。

単学級を2学年で交換授業+英語専科

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特活	交換で減	交換で増	専科で減	空き時間	担任が
5年担任A	A	B	A	A	A	B	A	A	専科英	A	A	A	4.5	4.5	2	2	27
6年担任B	B	B	B	A	A	B	B	専科英	B	B	B	B	4.5	4.5	2	2	27

(例1 単学級) 交換授業で5年担任が社会と図工を、6年担任が理科と音楽を持ちます。英語専科を活用することで、5、6年担任は2時間の時数減となります。

学年3学級で担任の交換授業+英語専科+教務主任

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特活	交換で減	交換で増	専科で減	空き時間	担任が
1組担任A	A	B	A	A	C	専科英	C	A	専科英	A	A	A	6	6	3.5	3.5	25.5
2組担任B	B	B	B	A	C	専科英	C	B	専科英	B	B	B	6	6	3.5	3.5	25.5
3組担任C	C	B	C	A	C	専科英	C	C	専科英	C	C	C	6	6	3.5	3.5	25.5

(例2 複数学級) 交換授業で1組担任が理科、2組担任が社会、3組担任が音楽と家庭科を持ちます。英語専科と教務主任(図工)を活用することで、高学年の担任は3.5時間の時数減となります。

○教科担任制を推進するにあたって

アンケート結果から4つの効果の視点の中で特に学力向上とチーム意識の点で教科担任制の実施は有授業等学校の規模、教員の状況に合わせた授業形態を学校組織全体で考えていく必要があります。また、

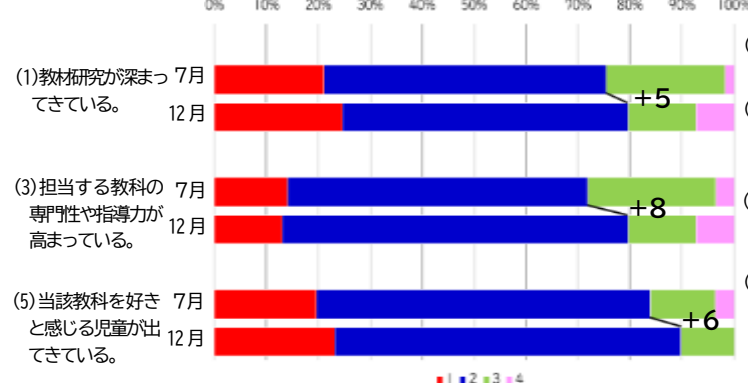
～学力向上・心の安定・チーム意識・負担軽減～

○4つの効果を検証(教科担任制に関する調査から)

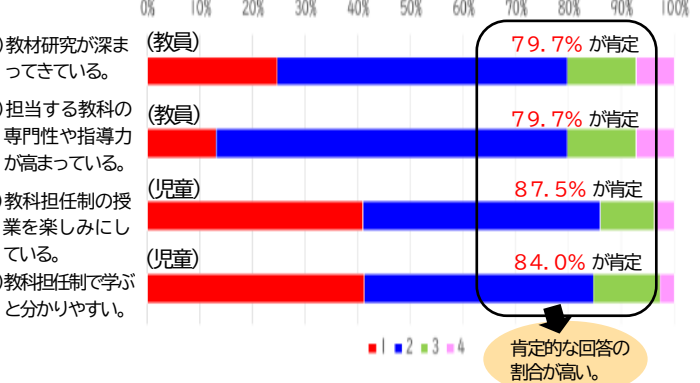
調査時期 教員への意識調査(令和2年7月、12月) 児童へのアンケート調査(令和2年12月)
対象教員 中丹マイスクールデザイン校登録校9校の教員 1回目60人 2回目70人
対象児童 中丹マイスクールデザイン校登録校9校の児童 1509人(1年から6年)

グラフの見方
1 よく当てはまる
2 当てはまる
3 どちらかと言えば当てはまる
4 当てはまらない

□ 学力向上に関わる教員の意識調査

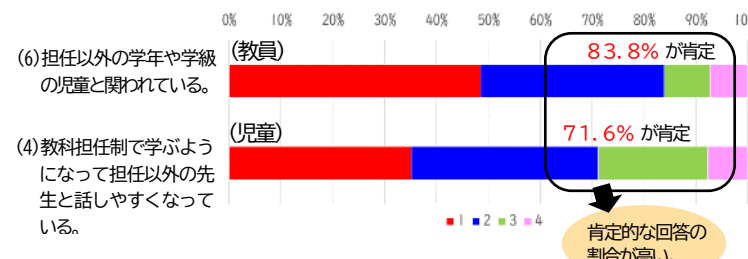


□ 学力向上に関わる教員と児童の意識(12月)



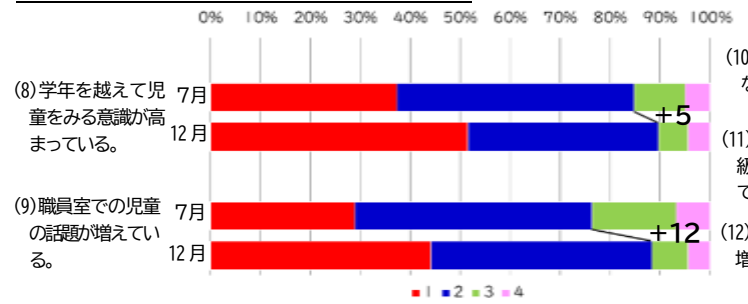
学力向上の視点では、教員の専門性向上の意識と児童の学習理解への意識はともに高くなっています。教員が担当する教科において教材研究を深め、教科の専門性を生かした授業を行うことで児童の学習意欲が高まり、「分かる」と感じる児童が増えています。

□ 心の安定に関わる教員と児童の意識(12月)

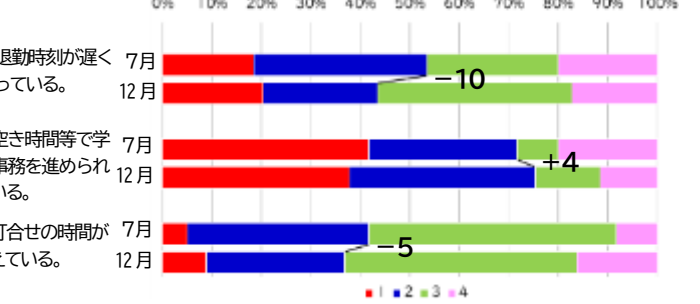


心の安定の視点では、教員、児童ともに担任以外での関わりが増えていると感じる意識は高くなっています。複数教員による多面的な児童理解により児童の心の安定を図り、自己肯定感を高めることにつながります。また、小学校から中学校への円滑な接続を実現します。

□ チーム意識に関わる教員の意識調査



□ 負担軽減に関わる教員の意識調査



教員のチーム意識の視点では、学級の枠を越えて、学年、学校全体で児童を見るという意識が高くなっています。チームで対応することで、これまで以上に児童の変化に気付くことができます。教員の負担軽減の視点では、空き時間の有効活用の意識が高くなっています。授業準備や学級事務、保護者への連絡等、少し時間にゆとりを持って取り組むことができます。

小学校教科担任制に関する教員への意識調査と児童へのアンケート調査の詳細については、当局発行の「まなび通信」第162号、170号を参照(当局HPに掲載)

効であることが分かりました。実施に向けて、担任による交換授業・専科教員(加配)による授業・担任外による長期的な視野に立って、持続可能な教科担任制を実施していく必要があります。